

畏怖と反省、そして希望

新年を迎えました。昨年は本当に様々なことが起きた年でした。

春を迎えようとしていた3月11日、東北の太平洋岸を中心に、甚大な被害となった東日本大震災。その被害は直接的に震災地とならなかった仙北市も飲み込み、現在も観光商分野は大打撃を被っています。福島第1原子力発電所の事故は、市内の農業や林産業、内水面に携わる方々にとって大きな懸念材料です。そんな中でも、市民の皆様は、災害が発生した直後から救援物資の提供、炊き出し、心のケアにいたるまで、多様な支援活動に取り組んでいただきました。ありがとうございました。

最大反省が必要な事案は、所得税還付等問題です。市民のみならず県民の皆様にも多大なご迷惑とご心配をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。関係職員の処分は、12月21日に発令しました。停職6ヶ月2名、停職3ヶ月1名、停職1ヶ月3名、減給10分の1（1ヶ月）1名、戒告3名、訓告11名、嚴重注意5名

ども、規模を拡大して取り組む予定です。遅れていた土地改良事業もやっ

と動き始めました。
震災後、社会の仕組みや価値観が変わろうとしている中で、仙北市は新エネルギー対策を急ぐ必要があります。まずはバイオエネルギーセンターの正常運転を目指します。加えて電気自動車事業、小水力発電事業を標榜します。

市立角館総合病院の新築は平成26年秋を目処に設定、議会には特別委員会の設置もいただき議論が本格化しています。懸案だった角館高校と角館南高校の統合は、県の整備計画に何とか間に合い、平成24年度内には基本・実施設計が組まれるはずで

す。角館高校校舎は平成25年度に耐震改修工事に着手し、26年度には角館南高校校舎を活用して統合高校をスタート。27年度からは全日制校舎（現角館高校校舎）の使用を始め、また定時制校舎（現角館南高校校舎）の耐震改修、大曲養護学校仙北地区分校（仮称）の新校舎建設を実施する予定で、28年度からは定時制の新校舎を、また大曲養護学校仙北地区分校（仮称）の新校舎を使用可能にしたいというのが県の計画です。

で、総勢26名です。石山修副市長は事務方トップとして引責辞任、市長の私は条例改正の上で、さらなる報酬削減を予定しています。再発防止策にも着手しました。今後は、国や県など各機関に対し、過大受給分の返納業務にあたります。正すべきを正しながら、何よりも市民の皆様の信頼回復に努めることをお誓いします。何度お詫びを申し上げても足りない位です。本当に済みません。

一方、昨年は今後の市勢に弾みがつく喜ばしい出来事も多くありました。クニマスの発見を機に、山梨県富士河口湖町との交流が具体化したこと、長崎県大村市長との懇談で、長く休止していた子ども交流の復活を双方で望んでいることが確認できたこと、玉川温泉と台湾北投温泉の温泉連携協定で、東アジア圏域の温泉交流が見えてきたこと等々。今年

は国内外交流が加速するはずで、また情報時代に対応し、産業対策・定住対策に不可欠と考えていた全市運営体が特色ある地域づくり、地域防災や見守り活動を本格展開します。これまでの活動で様々な課題の存在が見えてきました。一つひとつ丁寧に対応し、時間をかけて成熟して欲しいと思っています。運営体の横の繋がりを深める連絡協議会（仮称）も立ち上げる予定です。

※ 各事業がここに辿り着くまで、市民の皆様から2年の時間と多くのご協力をいただきました。心より御礼を申し上げます。私が掲げたマニフェスト「明日を創る8つの約束（40政策）」は、進捗状況を分析する検証事業を除く全てに着手済みです。

しかし市民の皆様からすれば、どのような変革が進んでいるのか実感できない状況だと思えます。物品調達業務委託の市内発注制度で、市発注の工事業務については、平成19年度の88%から10%積み上げができたなど、具体的な成果が見えてきた事例が少ないことも事実です。公約の中心的な位置付けとした所得を10%増の約束は、基準年とした平成18年度の一人あたり172万円から、平成20年度では169万円に下がってしまいました。任期は折り返しに入っています。市職員の意識改革プログラムの実施や行財政改革と同じレベルで、所得アップ対策に真つ向から

光ケーブル網の実現が、平成25年度前後で完了できる予定です。さらに産業振興基本条例・市民読書条例などが制定され、各分野で具体政策が進む環境が格段に進展できました。

皆様から要望の続く保育園・幼稚園の待機児童解消は、今年の当初予算で解決の糸口をつくります。また福祉向上のため、施設整備や人材育成をさらに進めます。

農畜連携事業として、県外の畜産会社と大規模肉用牛団地について情報交換を行っています。来年には市内での大規模肉用牛団地の実現を目指し、基礎計画の策定に向けて関係団体等と協議を行います。この取り組みは、畜産振興のほか、畜産を活かした新たな転作物（新規需要米等）の導入が容易となることから、耕作放棄地対策としても有効な手段の一つで、農業環境保全や農業所得の向上につながるものと期待しています。また震災後の作物団地育成を目指し、昨年から取り組んでいるブナ森牧場跡地を活用した栽培実証な

立ち向かう覚悟です。

※ 昨年の取り組みが功を奏し、今年、仙北市は様々な分野の全国大会の会場になります。日本温泉気候物理医学会総会・学術総会（6月7日～10日予定）、日本むかし話し学全国大会（6月23日～24日予定）、全国火山砂防フォーラム総会（10月18日～19日）、祭屋台等製作修理技術者研修会…、賑やかな1年になると思います。

私は、行政内部で起こった問題を隠すことはしません。常にオープンで、また元氣と笑顔で、今年も郷土づくりを進めるエンジンになります。自然の脅威が牙を剥いたら、人間は全く無力ですが、震災復興は、人と人の助け合い、人間力で勝負です。今をここで過ごせる、仕事に打ち込めることに感謝し、謙虚に、そして大胆に時を重ねたいと思います。今年も叱咤激励を、どうかよろしくお願いいたします。

仙北市長

門脇光浩